

Matsuyama Red Cross Hospital

# 地域医療連携室報

2020.5

No. **87**

## 基本理念

人道、博愛、奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

## 基本方針

- 1 最適で質の高い医療を提供し、患者に優しい病院を目指します。
- 2 多職種によるチーム医療を実践し、安全・安心な医療を提供します。
- 3 地域の医療機関、保健・介護・福祉と連携を図り、急性期医療・専門医療を実践します。
- 4 災害医療、国際救護活動の充実を図り、赤十字事業を推進します。
- 5 将来を担う人材の確保と育成に努めます。
- 6 一人ひとりが生き生きとし、働きがいのある病院を目指します。
- 7 健全経営の維持に努めます。

## 診療科紹介 ..... 放射線治療科

### 放射線治療科部長 浦島 雄介

#### 放射線治療科の診療体制

松山赤十字病院放射線治療科では入院、外来共に放射線治療を実施しています。院内の各診療科から、あるいは患者支援センターと当院の診療科を介して先生方には放射線治療依頼を頂戴し、日頃より大変お世話になっております。

現在のスタッフは医師として放射線治療専門医の浦島とレジデントの瀧本、放射線技師5名、看護師1名、受付1名にて診療にあたっております。

#### 高精度放射線治療の提供

当院での放射線治療の歴史は古く、1919年(大正8年)とされており、およそ1世紀の歴史があります。放射線治療はテクノロジーの発達とともに著しく進歩し、現在では病変への線量を確保しながら周囲の正常組織への線量を低く抑えた理想的な線量分布を得られる様になりました。強度変調放射線治療が活躍する場面としては頭頸部癌、前立腺癌症例が代表的ですが、直腸癌や肝癌など他疾患でもその長所を活かせる様になってきました。

こうした強度変調放射線治療や定位照射などの高精度放射線治療では、精緻な線量分布が可能となった一方で、標的位置も高い精度で再現する必要があります。

今回導入された最新治療機では治療時に位置合わせの画像が取得でき、ずれや変化を捉えられるようになっていきます。治療期間中の体格変化が補正の限度を超えることもあり、その場合は再治療計画を行った上で適正な線量分布となる様にしています。

すぐれた線量分布ができる高精度治療ですが、標的の輪郭描出→照射野設定→演算→評価を繰り返して最適な治療計画を作り込んでいくのですが、出来上がった計画を調整・検証作業も含めると、治療計画を始めてから治療開始できるまで数日から十日程度かかります。

技術が進んだ分、複雑かつ労力を要する様になりましたが、スタッフ一丸となって精力的に治療を行っております。

#### おわりに

放射線治療科の仕事は機器の急速な進歩もあり、この十数年で大きく変化してきました。がん治療を担う外科治療や薬剤の発展もめざましく、病態にあわせて治療選択肢も多様となっています。その中で放射線治療の役割をしっかりと果たし、より良い治療となる様に治療スタッフ皆で頑張っております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



# 新任部長紹介

## 呼吸器外科部長(呼吸器センター長) 竹之山 光広

この度、令和2年4月1日付で、松山赤十字病院呼吸器センター長、呼吸器外科部長を拝命いたしました。平成2年に九州大学卒業後、九州大学医学部第二外科に入局し、大学病院、広島赤十字原爆病院で研修後、九州大学生体防御医学研究所免疫学部門(野本喜久雄先生)で肺癌の腫瘍免疫の研究を開始しました。平成8年から産業医科大学第二外科(安元公正先生：松山赤十字病院初代呼吸器センター長)で、呼吸器外科・呼吸器腫瘍学の研鑽を積みました。教室の方針で肺癌の外科治療のみならず、I期からIV期までの診断と治療を行っていました。平成9年から2年間、ヒトではじめて腫瘍拒絶抗原MAGE遺伝子を発見したベルギーロドヴィック癌研究所(Thierry Boon 教授)に留学し、がんの免疫療法を学びました。その後、北九州市立医療センター、九州大学第二外科で勤務の後、平成24年より九州がんセンター呼吸器腫瘍

科の責任者として8年間勤務しました。ここでは、外科・内科関係なく悪性腫瘍の早期から進行癌まで担当し、多くの臨床試験や、新規薬剤の治験も経験させていただきました。特に近年注目されているオプジーボやキートルーダをはじめとした肺癌新規薬剤の治験責任医師を担当しました。これまでの呼吸器外科手術のhigh volume centerでの経験から、良性疾患や早期癌に対する低侵襲手術はもちろんですが、局所進行癌に対する集学的治療が患者さんの予後向上に寄与すると考えられますので、総合的な診療を行っていきたいと思います。地域の先生方や患者さんに少しでもお役に立てるよう努力して参りたいと存じますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



## 耳鼻咽喉科部長 篠森 裕介

この度、2020年4月1日付で耳鼻咽喉科診療部長を拝命いたしました篠森裕介です。私は1995年愛媛大学医学部を卒業し、研修医として2年間当院耳鼻咽喉科において指導を受けました。研修終了後は愛媛大学大学院へ進学し、在学中には米国 Massachusetts Eye and Ear Infirmaryに2年間留学させていただき内リンパ水腫関連の研究活動を行い、大学院修了後は愛媛大学医学部耳鼻咽喉科で助手として6年間勤務しました。大学勤務の間専門としていた領域は耳科学で、中耳、内耳疾患および末梢性めまいの診療に携わり、特に中耳手術、人工内耳手術の研修を積みました。2007年1月に当院耳鼻咽喉科に着任後は耳以外の領域の診療が増え、鼻副鼻腔疾患、頭頸部癌や甲状腺腫瘍の領域も多数経験させていただく機会を得ました。

耳鼻咽喉科の守備範囲は聴覚・平衡覚・嗅覚・味

覚という感覚器を含んでおり、さらに呼吸・嚥下・発声・構音など、人が人らしく生きる上で必要不可欠な機能が集中している領域です。超高齢化社会を迎えて難聴と認知症との関連が話題に上ったり、担癌での長期生存を可能とする治療手段が次々出現する時代であるだけに、生存期間延長のみならずQOLの維持が益々求められています。そこで我々耳鼻咽喉科医の果たす役割も大きくなっており、身が引き締まる思いです。患者さん一人一人が納得のいく医療を受けられるよう、全力で診療に邁進していく所存です。微力ではございますが、地域医療のために精一杯尽くしてまいりますので今後ともより一層のご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



## 第二外科部長 皆川 亮介



この度、令和2年4月1日付で第二外科部長を拝命いたしました。

平成8年に大分医科大学を卒業後九州大学第二外科に入局し、九州医療センター、九州大学病院での2年間の臨床研修、4年間大学院で肝移植、移植免疫の研究を行い、佐賀県立病院好生館に1年間、済生会唐津病院に3年間、米国マウントサイナイ病院に1年間留学、大分医療センターに1年間、九州中央病院に2年間、遠賀中間医師会おんが病院に2年間、飯塚病院に8年間勤務し今日に至っています。現在までに1200例程度の肝胆膵悪性腫瘍手術に携わらせていただきましたが、肝胆膵領域の外科手術は臓器の特性、癌の悪性度の高さなどから、安全性と根治性のバランスを保つことがなかなか大変です。手術が長期予後を期待できる治療法となる一方で、術後の合併症は時に致死的となることがあり、

技術力に加え判断力も大きく問われる領域です。

また治療成績の向上には個人の力ではなくチームの総合力が問われており、前任の飯塚病院では診療の質を上げるために、手術の標準化や術後リハビリプログラムの改善(腹臥位ドレーナージによる肺炎予防)、肝癌患者の栄養・運動指導(術前～術後1年間)など、チーム医療推進に取り組んでいました。

高校時代の3年間を過ごした松山の地で、このように働かせていただける機会をいただきましたことを、大変嬉しく、また光栄に思っています。今後もこれまでの経験を活かし、地域の医療をなお一層盛り立てて行けるよう努力を重ねてまいる所存です。

先生方におかれましては、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 第二産婦人科部長 山口 真一郎



この度、令和2年4月1日付で第二産婦人科部長を拝命いたしました。平成13年に愛媛大学を卒業し、九州大学産科婦人科に入局後は同大学病院、八重山病院で研修を行った後に九州大学大学院にて癌抑制遺伝子などに関する研究を行い、平成21年に博士課程を修了いたしました。その後は九州大学病院産科婦人科や、北九州医療センター、田川市立病院、九州がんセンターにて産科、婦人科の修練をさせていただきました。特に九州がんセンターや九州大学病院で婦人科悪性腫瘍の治療・手術を経験し、JGOGやJCOGの活動をさせていただいた中で、今後は腹腔鏡手術やロボット支援下手術のさらなる普及と遺伝子治療や免疫治療に代表されるような全科に関わる治療が婦人科腫瘍分野でも必要であると確信するに至りました。松山赤十字病院産婦人科は元来横山副院長のご尽力の元、腹腔鏡手術が他施設

に比して特徴の一つとなっております。前任の島本先生が赴任後さらに婦人科悪性腫瘍に対する治療が発展しつつある状況で平成31年4月に赴任して参りました。当院でも子宮体癌に対する腹腔鏡下手術が保険治療で可能となり、悪性腫瘍手術件数も順調に増えて参りました。また今年4月よりロボット支援手術を開始致しました。全国的にもまだ婦人科領域では限られた施設での治療ではありますが、地域の医療に大きく貢献するものと考えます。自分個人のスキルアップもさることながらOne teamとして松山赤十字病院がさらに幅広く地域に貢献できるよう尽力して参りたいと考えますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

# 患者支援センター副所長紹介

## 第一循環器内科部長 盛重 邦雄



日頃より、当院の診療体制にご理解ご協力を頂いている連携医療機関並びに連携施設の皆様方には、厚く御礼申し上げます。この度、令和2年4月1日付をもって患者支援センター副所長を拝命致しましたので、ご挨拶させていただきます。

当院の患者支援センターは、従来の地域医療連携室が、その組織上の位置付け明確化を図るため、平成30年より改組し、地域医療連携部門、療養支援部門、相談部門の3部門を設置して発足致しました。現在、当センターには、医療ソーシャルワーカー7名、看護師13名、事務職員10名が配属され、患者さんの療養支援体制の充実のため、日々尽力しております。

私は、2015年4月より当院に着任し、現在は第一循環器内科部長を兼務する立場にあります。当科も含めて、現代の医療は、益々高度化細分化される傾向にあります。特に当院のような救急病院あるいは急性期病院では、その傾向は顕著です。一方、昨今の診療では、当然のことながら、患者さんからインフォームド・コンセント（説明による同意）が得られなければ、治療は成立しません。しかしながら、複雑化する医療において、説明すべき事柄は多岐にわたります。患者支援センターは、医療チームに加わる形で、患者さん及びご家族に、疾患や療養に関する様々な情報を提供する

役割を担っています。また最近では、高齢化の進展に伴い、我々が専門とする心臓血管病で入院された患者さんが、複数の併存疾患を抱えられていることが珍しくありません。急性期の治療を終えた患者さんが、体力低下のため、リハビリ目的に他医療機関や施設に移られることもしばしばです。当院は、地域医療において、主に急性期医療を担うことを期待されているかと存じますが、高齢で併存症も多い患者さんが増える中で、急性期病院のみで治療が完結するケースは稀です。急性期から慢性期にかけて、円滑に治療を継続出来るよう地域全体での取り組みが重要であり、かような医療連携において、患者支援センターは、患者さんと院外医療機関や施設との橋渡しの役割も担います。

2021年には、建設中の新病院南棟が完成し、当院の機能は全面的に刷新されます。新病院が、地域医療において、その役割・機能を十分発揮するためには、患者支援センターの機能充実が必要不可欠であると考えています。私も微力ながら、当センターを通じて、地域医療に貢献させて頂きたいと存じます。引き続きご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 地域医療連携フォーラムの中止について

2020年7月12日（日）に松山市民会館 大ホールで開催を予定しておりました地域医療連携フォーラムについては、新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、開催を中止することといたしました。何卒ご了承いただきますようお願いいたします。

# アンケート調査結果について

## 患者支援センター

	(%)	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
1. 医師満足度	R1	82.9	15.4	1.7	0.0	0.0
	H30	89.9	10.1	0.0	0.0	0.0
2. 患者満足度	R1	61.5	33.3	5.2	0.0	0.0
	H30	73.7	23.2	3.0	0.0	0.0
3. 連携室に対する満足度	R1	72.6	22.2	3.9	1.3	0.0
	H30	78.8	18.2	3.0	0.0	0.0

平素は、当院患者支援センターの事業運営にご支援、ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、今年1月に地域医療連携に関するアンケート調査をお願いし、153施設の先生方よりご回答をいただきましたのでご報告いたします。

### 1. 医師満足度

「満足」が前年度比で7.0ポイント減、「やや満足」が5.3ポイント増、「どちらでもない」が1.7ポイント増、「やや不満」「不満」が前年度と同じく0.0%となりました。

### 2. 患者満足度

「満足」が前年度比で12.2ポイント減、「やや満足」が10.1ポイント増、「どちらでもない」が2.2ポイント増となりました。

### 3. 連携室に対する満足度

「満足」が前年度比で6.2ポイント減、「やや満

足」が4.0ポイント増となり、「どちらでもない」が0.9ポイント増、「やや不満」が1.3ポイント増、「不満」が前年度と同じく0.0%となりました。

今回の調査では、医師満足度、患者満足度、連携室に対する満足度で「満足」の割合が前年度に比べて減少し、「どちらでもない」が増加となっております。

この結果を踏まえ、なお一層身を引き締め、今後も皆様へさらに満足していただけるよう努めて参りたいと思います。

### 4. 医療連携に関するご意見・ご要望

①連携室に口調がきつく感じられる方がおられます。

回答……ご意見ありがとうございます。言葉遣いに気をつけ丁寧な対応を努めたいと存じます。

②発達障害、アレルギー疾患の中心となる病院（小児）になるよう発展していただければと思います。

回答……成育医療センターの柱である救急医療、成育医療、専門医療の中でもお礼

いただいた分野は需要も多く主要分野と位置付けています。当科としても力を入れて行きたいと存じます。

③患者が退院の際、できるだけ家に帰れるように連携室にお願いしたい。かかりつけ医にも相談して欲しい。

回答……患者さんの状態により転院した場合は、ご連絡差し上げます。また、ご自宅へ帰られる場合は相談させていただきますのでよろしく願いいたします。

④「松山赤十字病院地域医療連携ネットワークシステム」を使用してみたいと思いますが、やはりセキュリティの点、設定、管理などから現時点では申し込み出来ておりません。

回答……セキュリティは愛媛県医師会の地域医療連携ネットワーク（EMA ネット）のVPNを利用することでインターネットから遮断された安全な接続を行います。また、当院職員が設定作業に伺います。

皆様からいただきましたご意見・ご要望を真摯に受け止め、患者支援センター及び院内の業務内容を見直し、できる限り皆様のニーズに対応できるように取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、大変お忙しい中、アンケートにご協力いただき本当にありがとうございました。今後とも、当院患者支援センターをよろしく願いいたします。

## 松山赤十字病院登録医制度について

現在、当院の登録施設は404施設、登録医は558名です。

今後も随時、受付けておりますので当院「患者支援センター」までお問い合わせください。TEL (089)926-9516

## FAXによる受診予約について

患者支援センターでは、従来より地域のかかりつけ医の先生方からFAXによる紹介患者さんの受診予約を承っております。当日、患者さんは正面玄関左の「院外紹介患者受付」にお越しいただくことで初診受付の手続きが不要となり、待ち時間の短縮になります。是非、FAXによる受診予約をご利用いただきますようお願い申し上げます。

**FAX (089)926-9547 (24時間受付)**

**TEL (089)926-9527 (平日8:30~17:10)**

※17:00以降にいただいたFAXにつきましては、翌日のお返事とさせていただきます。

バックナンバーにつきましては当院ホームページからご覧いただけます。

■ 発行責任者 / 副院長（患者支援センター所長） 藤崎 智明

■ 編集 / 松山赤十字病院・患者支援センター 〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL 089-926-9527 FAX 089-926-9547 <http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>